

# 外国カリキュラムを提供する学校への 公的関与のあり方に関する一考察

—ドバイにおける学校監査を事例として—

御手洗明佳・中島 悠介・柳田 雅明

## はじめに

### (1) 問題の所在

本論考は、中東湾岸地域に位置し、グローバル化が極端に進行した社会であるドバイにおける、外国人を主な対象とした私立学校を事例として、現地政府からの教育的側面における関与の様相を明らかにすることを目的とする。

現在、社会ではグローバル化が急速に進行しているといわれている。教育分野でも、こうしたグローバル化への対応が要求され、その一つに、外国人児童生徒を主な対象とした外国人学校やインターナショナルスクール（以下、インターと略）などの設置が挙げられるが、それらの学校の発展は、日本国籍の子どもやその保護者の教育期待をも変容させている。例えば、国内では2～6歳を対象とした「プリスクール」へ通う子どもの数が増加しており、その数は約6万人といわれる<sup>(1)</sup>。さらに、これまでは一部の例外を除いて認められてこなかったインターへの進学は、2016年に「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保保持に関する法律」が公布されたことにより、所属する教育委員会へ学習状況を報告することで可能となった。

こうした公教育制度の規制緩和の動向は、インターへの進学を直接的に推奨するものではないが、国民の多様な実情やニーズへ対応するものであり、「教育の私事化（私事現象）」の一部分とみなすことができる。日本では、臨時教育審議会が教育の自由化路線を打ち出した80年代中頃から「教育の私事化」現象が目立ちはじめ、90年代以降に市場主義的な教育政策が全面的に実施されることで「教育の私事化」が進んだといわれる（藤田 1993, 市川 2006）。こうした教育の私事化への批判的な意見として「公共性をもつ学校教育が家庭の嗜好と教育力と経済力に委ねられること」（藤田 1993, 1994）や「子どもの教育・学習の保障につながらないこと」（藤田 1999: 196-7, 高橋 2005: 75, 中村 1999: 19-20）が挙げられる。たとえば、インターなどの“国家カリキュラムを越えた学校選択の自由”を認めた場合、教育方法・学習形態が学習指導要領の基準とは異なるため、公教育の役割の一つである「国民養成」の機会が損なわれる恐れもある。すなわち「教育の私事化」の極端な進行は、国家にとっては「国民養成の機会喪失」に、個人にとっては「教育・学習保障の喪失」につながりかねないリスクをはらんでいる。

## (2) インターナショナルスクールの設置が進む UAE（ドバイ）

自国民の多様な実情やニーズへ対応するため、国家カリキュラムを越えた学校選択の自由が必要とされているのは日本だけではない。世界のインターに関する統計情報を出している ISC Research によれば、2010 年時点では世界で 6,001 校だった学校数が、2017 年には、9,538 校へ増加しており約 60% 増えたことになる。その中でも、特にインターが発展している国がアラブ首長国連邦（UAE）であり、UAE を構成する首長国であるドバイ首長国（ドバイ）では、面積が約 4,000 km<sup>2</sup> という滋賀県程度の大きさしかないにも関わらず、306 校のインターが設置されている。UAE は中東湾岸地域に位置し、1971 年に英国から独立した連邦制国家であるが、イスラームが国教であり、アラビア語を公用語としている。経済開発を推進するため外国人労働者を多く受け入れていることから、人口約 980 万人（2019 年）のうち自国民は 15% ほどに過ぎず、日常生活やビジネスの場では英語も広く使用されている。特に、天然資源に乏しいドバイでは、早くから資源依存型経済からの脱却が志向され、ドバイの経済政策では貿易やビジネスを中心に外資企業を積極的に誘致し、製造・金融・不動産などを主要な部門として多角化している。これらの経済発展は多分に外国人労働者に支えられており、その人口はインドやパキスタンといった南アジア出身の労働者が多いが、高所得のホワイトカラー層には欧米諸国からの駐在員も多く含まれている。こうした現地在住の外国人の子どもを対象としたインターや国際バカロレア（International Baccalaureate, 以下、IB と略<sup>(2)</sup>）認定校、外国人学校が多く展開しているが、近年は学力の向上や充実した英語教育を求めて、これらの学校への就学を希望する UAE 国民も増えている状況がある。

## (3) 本論考の目的と調査概要

このように、日本とは社会的・文化的背景は異なるものの、自国民に対して国家カリキュラムを越えた学校選択の自由を認めるドバイの状況は、公教育の規制緩和が進む日本が直面するであろう選択肢拡大の先に、どのような新たな枠組みで公教育を展開しているのか、一つの事例を示すものである。特に、国民が UAE 以外の多様なカリキュラムを提供する私立学校に就学できる状況に対し、国家の存続にとって重要な国民養成の維持・発展のため、政府等の機関がどのように学校に対してアプローチしようとしているのだろうか。また、自国のカリキュラムを受講しないことを選択した子どもの教育・学習は、どのように保障されているのだろうか。ドバイの教育に関連する先行研究を確認すると、UAE における教育改革の動向や英語教育・STEM 教育の概要を取り上げた Gallagher (2019) や、ドバイの私立学校の改革を概観した Cuadra and Thacker (2014) などがあるが、外国カリキュラムを提供する私立学校と現地政府機関の関係を考察した研究は見られなかった。

以上の問題関心から、本論考は、グローバル化が進行した社会であるドバイにおける、外国人を主な対象とした私立学校を事例として、教育的側面を中心に、現地政府からの関与の様相を明らかにすることを目的とする。この目的のため、第 1 節でドバイにおける外国人学校やインター等私立学校の展開状況を概観する。そして、第 2 節で私立学校に対する政府機関の関与の事例として学校監査

表 1 ドバイ私立学校訪問調査概要

	学校	カリキュラム	対象	時期	時間	使用言語
A	グリーンフィールド・インターナショナルスクール (GIS)	IB	DP/CP コーディネータ	2018/03/11	120 分	英語
B	ジュメイラ・バカロレア・スクール (JBS)	IB	DP コーディネータ	2018/03/14	60 分	英語
C	ジュメイラ・バカロレア・スクール (JBS)	IB	ユニバーシティカウンセラー	2018/03/14	60 分	英語

(School Inspection) の制度的な枠組みを整理したうえで、第 3 節で学校監査の評価報告書を手掛かりにそれらの関与の特質を明らかにする。そして、第 4 節で政府機関による関与に対する学校側の認識を、学校関係者へのインタビューをもとに検討し、第 5 節において総合的な考察を行う。

なお、本論考では、UAE（ドバイ）政府が発行する『UAE 学校監査枠組み（UAE Ministry of Education 2015）』や『学校監査報告書（Knowledge and Human Development Authority 2020）』などの政策文書及び報告書を中心に検討を進める。さらに、2018 年 3 月に執筆者 3 名でドバイの私立学校 2 校を訪問し、計 3 名の学校関係者に対してインタビュー調査を実施した（表 1 参照）。インタビューでは「外国カリキュラムとドバイ現地の教育制度について」「学校監査のあり方について」「ドバイ政府の関与の方法について」を中心に質問した。

## 1. ドバイにおける私立学校の展開状況

UAE は 7 つの首長国から構成される連邦制国家であるため、連邦と首長国によって学校への関与の様相が異なっている。連邦レベルの教育部門を管轄する政府機関として連邦教育省が設置されている一方<sup>(3)</sup>、各首長国でも教育部門に関連する政府機関が設置されており、例えばドバイでは 2006 年に設置された知識・人材開発庁（Knowledge and Human Development Authority、以下、KHDA と略）が首長国内の教育機関を管轄している。実際にドバイでは、連邦教育省のカリキュラムに則った公立学校は主に連邦教育省の監督のもとにあるが、私立学校に対しては KHDA が監督庁としての役割を務めている（Kippels and Ridge 2019: 39–40）。

本論考で対象とするドバイでは、2020 年 12 月時点で、後期中等教育段階の教育を提供する 127 の私立学校（この学校には、外国人学校やインターも含まれている）が、KHDA のディレクトリで確認できる。それらの私立学校のカリキュラムを概観すると、英国：45 校、米国：31 校、インド：21 校、国際バカロレア（ディプロマプログラム、以下、DP と表記）：20 校、UAE 連邦教育省：8 校、イラン：6 校、フランス：3 校、フィリピン：2 校、パキスタン：2 校など、特に英国・米国のカリキュラムを提供する学校が多く見られる（一つの学校で複数種のカリキュラムを提供する場合もあるので、合計は 127 を超えている）。インドのカリキュラムを提供する学校が多く展開しているのは、UAE においてインド人人口が最も多く、それらの生徒の市場に対応しているためであると考えられる<sup>(4)</sup>。この

ようなドバイの後期中等教育段階の私立学校に所属している生徒数は、2017年度では36,870人となっており、公立学校に所属する生徒数6,308人に対して約5.8倍の数字を示している（UAE Ministry of Education ウェブサイト）。このように、ドバイでは多様なカリキュラムを提供する私立学校が多く展開しており、これらの学校に所属する生徒の多くは外国人であるものの、一定数のUAE人も含まれている。

ドバイにおいて私立学校の認可を得る際、「ドバイ首長国における私立学校の規制に関する執行評議会決定（2017年第2号）」に基づき、特定の必修科目を設定することが求められる。この決定の第18条c項では、「UAEの一般教育カリキュラム以外のカリキュラムを採用する私立学校は、カリキュラムにおいて、ムスリムの生徒を対象とした必修科目として『イスラーム教育』の科目を、また、すべての生徒の必修科目として『アラビア語』と『社会科』の科目を設置しなければならない。KHDAはこれらの科目の指導に関連する最低要件を決定する」ことに加え、同条e項では「カリキュラムはUAEの国家アイデンティティ及びイスラーム・シャリーアの原理を大いに重んじ、高い評価を示さなければならない」と規定されている（Dubai Executive Council 2017: 12）。実際にKHDAは私立学校に対して上記の3科目に関する要件を設定している。例えば『イスラーム教育』であれば、国籍や学年に対応する授業時間の割り当てがあり、ムスリムの生徒を受け入れることを想定する際には、こうした要件を満たすことが求められる。このように、UAEの連邦教育省のカリキュラムに対応していない私立学校も、設置認可の段階でUAEの文化を考慮した必修科目を設定しなければならない。

最後に、こうした多様なカリキュラムを提供する私立学校について、高等教育段階への接続に関する制度を確認しておきたい。一般的に、UAE人が公立学校に就学せず、国外の学校や国内のUAE以外のカリキュラムに沿った学校に就学した場合、卒業後にUAE国内の高等教育機関に就学するためには、それらの教育機関により発行される証明書や卒業証書、技能証明書などが、UAEの公立学校で取得できるものと同等であることを示す「同等性証明書」を連邦教育省より取得する必要がある。この「同等性証明書」を取得するプロセスは各学校により進められるが、それぞれのカリキュラム（英国、米国、国際バカロレア、カナダ、イラン、インド、パキスタン等）に対して特別要件が設定されている。例えば、国際バカロレアのカリキュラムを修了した生徒の場合、「同等性証明書」を取得するためには、「最低でも24ポイントを獲得したIBDPの原本。ただし、もしもアラビア語から得られるのであれば、そのポイントは除くものとする」「教育省のアラビア語の科目のための、10, 11, 12学年の学校の報告書」「（ムスリムの生徒のみを対象に）教育省のイスラーム教育の科目のための、10, 11, 12学年の学校の報告書」を提出することが求められる。

実際にどの程度のUAE人が私立学校に通い「同等性証明書」を取得しているのかのデータは得られていないが、前述の訪問校2校はいずれもUAE人を受け入れ、「特別要件」に対応していた。さらに、訪問したIB校教員への聞き取りでは、「現在、IBの教育を要求するUAE人生徒はどんどん増えています。それは、彼らが世界中を旅したいためであり、彼らは米国など他の場所で勉強しています。もしUAEの資格を持ってそこに行くのであれば、受け付けられないでしょう。彼らは他

のカリキュラム，例えば IB を求めています。」（GIS の学校関係者へのインタビュー）との意見を聞くことができた。

## 2. ドバイにおける私立学校への関与—学校監査による質保証を中心に

このように，インターを含めた私立学校に対しても，設置段階や高等教育段階への接続において，UAE の文化的背景を考慮するように政府による関与が見られるが，運営における重要な関与の状況として，質保証の問題が挙げられる。ドバイにおける私立学校の質保証について主たる役割を担っているのは，2007 年に KHDA の内部に設置されたドバイ学校監査局（Dubai School Inspection Bureau, 以下，DSIB と略）である。DSIB の主要な機能には「教育の質のための指標を設定すること」「基準を活用して学校の業績を測定し，監督するためであったり，それらの報告書を発行するための報告システムを採用すること」「低い業績の学校を改善するのを支援するために必要な実践的な測定を採用すること」などが挙げられており，こうした機能を果たすことにより，学校の質について透明性を促進することを目指している（Cuadra and Thacker 2014: 23）。そして，そのための業務の一部として，毎年，各私立学校に対する約 3 日間の現地における学校監査を実施し，その監査の結果を KHDA のウェブサイト上で公開している。2008 年から 2018 年までの 10 年間で，1,416 回の学校監査が実施され，のべ 137,000 回以上の授業での観察が実施された（Tamim and Colburn 2019: 170）。こうした学校監査を通し，学校の教育の質を保証し，問題があれば改善に寄与するとともに，学校の情報公開を促進することで，保護者や生徒が学校を選択する際に参考にできるようにすることが意図されている。

UAE の学校監査フレームワークによれば，6 つの「パフォーマンス基準」とともに，その中に 17 の「パフォーマンス指標」が設定されている。その中でも，特に重要な 2 つの成果として「生徒の達成度」と「生徒の個人的・社会的な発達及び革新スキル」が挙げられている。これらの 17 の指標に対して，【Outstanding】【Very Good】【Good】【Acceptable】【Weak】【Very Weak】の 6 つの尺度で評価結果が提示される（UAE Ministry of Education 2015: 18–19）。また，これらの指標に対する評価に加え，学校全体への評価付けも行われるが，前節で挙げた 127 の私立中等教育学校のうち，【Outstanding】が 10 校，【Very Good】が 28 校，【Good】が 39 校，【Acceptable】が 30 校，【Weak】が 2 校，【Very Weak】が 0 校，そして，新型コロナウイルス禍により最新の評価が実施されていないのが 18 校となっている<sup>(5)</sup>。

実際に「生徒の達成度」に含まれる 3 つの指標である「生徒の到達度」「進展度」「学習スキル」を判断する際には，『イスラーム教育』『言語』『数学』『科学』『UAE 社会科』の 5 つの科目の状況が評価されるが，『イスラーム教育』はムスリムの生徒のみが対象となる科目である。例えば，『イスラーム教育』では「神聖なるクルアーンとハディース」「イスラームの価値観と原理」「イスラーム法とエチケット」「預言者の人生」「信仰」「アイデンティティ」「人間性と普遍的なもの」という 7 つの分野から構成されている一方，『言語』では「第一言語または第二言語としてのアラビア語」「英語」「アラビア語または英語が指導言語ではない場合の言語」といった分野が設定されている（UAE Ministry



of Education 2015: 21)。

以上を整理すると、ドバイではインターを含めた私立学校を運営する際には、UAE 人の子どもを学校に受け入れることを想定する場合、UAE の文化・社会的要素を考慮した多層的な行政的関与が見られることがわかる。まず、私立学校を設置する際にはイスラーム教育やアラビア語、UAE 社会科といった科目を設定することが求められ、さらに学校運営の中でも学校監査を通して学校全体の教育の質を保証し、各科目に関する現地調査を通じた評価が行われる。そして生徒が卒業資格の同等性証明書を取得する際、当該科目の学習状況に関する報告書の提出が求められる点で、こうした UAE の文化・社会的背景に関する要求に対応しつつ、私立学校が展開されているといえる。

### 3. ドバイ政府からの要件に対する学校の対応—学校監査を中心に

それでは、ドバイにある私立学校は学校監査においてどのような評価結果を受けているのだろうか。本節では、筆者らが訪問した私立学校のうちグリーンフィールド・インターナショナルスクール (Greenfield International School, 以下、『GIS』と略記) の『学校監査報告書』を概観する (Knowledge and Human Development Authority 2020)。この学校は教授言語を英語としたインターであり、かつ IB 機構の認定も受けた IB 認定校であるため、カリキュラムも IB を採用している。

対象校の 2019-2020 学校監査の学校全体の結果は【Good】であった。この評価は 2013 年以降、毎年変化していない。そして生徒の達成度では、『イスラーム教育』『言語』『数学』『科学』『UAE 社会科』の 5 つの科目のうち、『イスラーム教育』『言語』(アラビア語)では、【Good】【Acceptable】の評価がほとんどである一方、『言語』(英語)や『科学』では、【Outstanding】【Very Good】の項目が多い。ここから、対象校では「イスラーム教育」や「第一言語としてのアラビア語」といった「アラブ諸国のパスポートを持っているすべての生徒」の履修が必修とされる教科の評価は基準を満たしているものの、優れているとまではいえない状況である。さらに各項目について詳細を見ると、評価の背景が記されている。例えば「イスラーム教育」の箇所では「すべての段階で、生徒はカリキュラムの基準に示される項目について、知識と理解を示している。『神の啓示』の部分に関する生徒の理解、暗記、朗読のスキルは、特に DP 段階の生徒は未発達である状況である。PYP と DP 段階のほとんどの生徒は、期待される段階に到達している。MYP 段階の生徒のほとんどは、『神聖なるクルアーンとハディース』の暗記と朗読で予想以上の進展を遂げている。DP の生徒は、『イスラームの価値観と原理、そして現代の問題』において良い進展を遂げている。」(p. 10 筆者翻訳)と記述されている。また、今後改善が求められる内容を示す「発展のために」の項目では、「特に PYP, DP 段階の生徒の進展を加速させること。すべての学年、特に、DP 段階で『神の啓示』部分についての生徒の理解、暗記、朗読のスキルを向上させる」(p. 10 筆者翻訳)ことが示されている。また「第一言語としてのアラビア語」では、「リーディングとリスニングのスキルは、すべての段階でもっとも抜きん出ている。PYP では、教師からのフィードバックに対する生徒の反応が他の段階よりも優れている。PYP と MYP では、アラビア語の文法と詩に関する生徒の知識は期待を下回っている。学校は、以前

の報告書で特定された DP カリキュラムの課題の欠如箇所について効果的に対処していない」と記述されている。対象校はインターであるものの、学校の基礎情報からは「生徒最大の国籍グループ」はアラブ（諸国）となっている。にもかかわらず、第一言語であるアラビア語の達成度や進展が思わしくないというのは不思議にも思える。対象校の教員へのインタビューからは以下のような事情が浮かび上がった。

「アラブ人の両親である生徒の多くはヨルダンかパレスチナから来ているので、彼らはアラビア語を上手には話しません。というのも、彼らは元々米国や英国で住んでいて、それからここにやってきたのです。そのため、みんな英語を話します。しかし、彼らはアラブ諸国のパスポートを持っているため、アラビア語を学習するようにいわれるのです。そして、彼らは（元々）アラビア語を話さないため、（アラビア語の学習が）とても困難なのです。」（GIS の学校関係者へのインタビュー、カッコ内は筆者による補足）

このように、アラブ人である（アラブ諸国のパスポートを持つ）からといってアラビア語を必修とすることは、必ずしもアラブ人に対して学習の負担を軽減することにはつながらないことがわかる。こうした状況は、グローバル化の中で生きる多様な背景をもつ目の前の生徒らの状況と、国家からの基準を満たさねばならない学校側の苦労が垣間見ることができる。

一方、DP 段階で【Outstanding】の評価を得た「英語」はどのような点で評価されていたのだろうか。報告書によれば、「おおよその場合、低いレベルから開始し、KG 及び PYP 段階の生徒の大多数は予想よりも良い進展を遂げている。MYP でも生徒は前向きな進展を続けている。DP は、ほとんどの生徒は予想以上の進展を遂げ、カリキュラム基準を上回っている。若い生徒がより幅広いジャンルで長い文章を書く機会が増えることで、ライティングの質が向上し始めている。年長の生徒は、ますます洗練されたエッセイで自分の考えを明確に表現するために正確な言語を使用する。生徒のスペル、句読点、文法は着実に向上している」と記述されている。そして「発展のために」では「読書で期待される基準を超える生徒数を増やす」ことが推奨されている。ここから、インター、IB 認定校ならでは、得意な分野・事項がうかがえる。

以上のように、KG から DP までのそれぞれの段階で、設けられた基準、さらに基準に沿った項目について、どの程度の到達段階・進展状況にあるのかが記述され、その結果として評価が付けられている。報告書を読み進めると「内部データと外部データに大きな隔たりがあり、内部データは生徒の成績の正確なレベルを反映していない」など厳しい指摘も見られた。同時に、「発展のために」では現状における課題点も示されており、学校改善のための根拠資料としての価値は大きいものであることも確認された（Knowledge and Human Development Authority 2020: 10-14）。また、こうした資料が KHDA のウェブサイトで容易に閲覧できることは、保護者や生徒が学校を選択する際に参考になるものであろう。

なお、今回の対象校の事例では、DSIBによる学校監査の結果は【Good】であり、一定の基準を満たしていること、さらに、IB認定校のインターであることから、IB機構が実施する「評価訪問（Evaluation Visit）」の基準（1. 理念、2. 組織（教員養成含む）、3. カリキュラム）にも対応し、無事に承認を得ていることも前提として触れておく。

#### 4. 私立学校による学校監査への対応状況

本節では、前節までに検討したドバイの私立学校に対して課される要件について、実際にどのような対応がなされているのか、GIS及びジュメイラ・バカロレア・スクール（JBS）の学校関係者に対して実施したインタビューを手掛かりに検討したい。

まず、ドバイ政府から設定されるカリキュラム（特にローカルな要素を反映した科目）の要件については、GISによると「私たちが持っている唯一の（単なる）要件は、もし生徒がアラブ諸国のパスポートを持っているならば、彼らはアラビア語を学ばなければならない、ということである」として、「アラブ諸国のパスポートを持っているすべての生徒」が履修する必要があることを述べており、UAEで私立学校を運営する中でそれらの科目を提供する重要性を認識していることがわかる。一方で、学校監査の評価の重点では、インタビューの中で以下のようなコメントが聞かれた。

「(IB) CPのために特別な要求はありませんが、彼らが行うことは、学校にやってきて、学校全体を見ることです。そして、彼らが求める一定の基準があります。主なことは、指導（teaching）と学習（learning）です。彼らは教室にやってくると、先ほど述べたように、これまでであれば、英語、数学、科学そしてアラビア語を観察し、検査するだけでしたが、現在、彼らは音楽や芸術、スポーツについても評価を行います。そのため、彼らが指導（teaching）と学習（learning）を見ると、実際にどのようなことが行われているのだろうか？ どのようにして生徒は学び、どのような進歩が実現されているのか？ 何が起きているのか？（こののを見ています。）」（GISの学校関係者へのインタビュー、カッコ内は筆者による補足）

「それは（IB）DPと（IB）CPに対して大きなインパクトは持っていません。明らかに、彼らはコア科目を検査しており、英語、数学、科学、アラビア語、イスラーム学習を検査しています。……（中略）……彼らは学校全体にわたる指導（teaching）や学習（learning）を見ています。現在、これは、IBの哲学が私たちに助けていると考える部分でもあります。基本的に、IBシステムにおける指導（teaching）や学習（learning）はDSIBの検査にとっても合っているのです、それは質の高い指導（teaching）が何なのか、ということにとってもよくつながっています。よって、私が考えるのは、私たちはIBのために指導（teaching）に焦点を当てるとき、私たちは同様に、DSIBにとっての需要にも合わせるといことです。」（JBSの学校関係者へのインタビュー、カッコ内は筆者による補足）



このように、学校監査においては国外のカリキュラムである IB を対象とした要件は設定されていないものの、学校監査において評価される科目を挙げつつ「指導」や「学習」といったキーワードを提示し、学びのプロセスに焦点を当てていることから、首長国としての一定の評価プロセスを経て質を保証しようとしており、学校としてもこうした要件に対応しようとしていることがわかる。

最後に、ドバイにおける IB 校の卒業資格の認証についても取り上げておきたい。連邦教育省から発行される同等性証明書について、JBS におけるインタビューでは以下のようなコメントが聞かれ、特に UAE 国内での進学や就職を目指す生徒にとっては重視されていることがわかる。

「UAE 人の生徒について、彼らは IB のウェブサイトから結果が記載されたトランスクリプトを印刷します。……（中略）……そのトランスクリプトは学校によってスタンプが押され、それは証明された本当のトランスクリプトとなります。それから、私たちは生徒に対してレターを提供し、アラビア語学習の要件やイスラーム学習の要件を完遂したことを示さなければなりません。ムスリムの国家なので、彼らは 12 学年までイスラーム学習をしなければなりません。そのため、学校はそれらのレターを提供するイスラーム学習とアラビア語学習の要件を満たすことが同等性証明書への基本となります。」（JBS の学校関係者へのインタビュー）

このように、UAE 人の生徒に発行される同等性証明書を取得するための要件として、レターや『アラビア語』『イスラーム教育』の要件を満たした成績証明書を提供することの重要性が認識されている。特に、UAE 人にとってはこの同等性証明書がなければ国内の高等教育機関に進学したり、卒業後に公的機関に就職したりすることが困難になるのもあわせて述べられていた。

## 5. 結論と今後の課題

本論考は、国民が自国以外のカリキュラムを提供するインターや私立学校に就学できるという状況を踏まえ、国家の存続にとって重要な国民形成の維持・発展のため、政府等の機関は学校に対してどのようにアプローチしようとしているのか、また、自国のカリキュラムを受講しないことを選択した子どもの教育・学習はどのように保障されているのか、という問題意識のもと、グローバル化が極端に進行した社会であるドバイにおける、外国人を主な対象とした私立学校を事例として、現地政府による教育的側面における関与の様相を概観してきた。

まず、UAE 国籍の子どもは、インターのような UAE 国外のカリキュラムを提供する学校に就学する学校選択の自由が認められており、教育・学習の保障へとつながられている。しかし、UAE 国内の高等教育機関に進学しようとした場合、そうしたインターが UAE 国内の学校と同等であることを示す同等性証明書を取得する必要がある。それらの証明書を取得するには国の基準で指定されたイスラーム教育やアラビア語といった特定の科目を受講する必要がある点で、UAE 国外のカリキュラムを提供する学校への就学の自由を認めつつ、アラビア語やイスラームといった UAE の言語的・文化

的基盤を維持しようとしている。一方で、KHDAは、UAE国外のカリキュラムに基づいて運営される私立学校であっても、UAE人の子どもを学校に受け入れることを想定する場合、上記の背景から設置段階においてイスラーム教育やアラビア語といった科目を設定することを求めたり、学校運営の中でも学校監査において、それらの科目を含めてドバイが求める教育の質の基準を満たすかどうか、現地調査を通じた評価を実施している。

こうした外国人学校及びインターに通うUAE国民を取り巻く制度的状況を総合的に考察すると、KHDAは外国人学校やインター等の私立学校に対し、UAEの国際化が進行した社会的状況を背景に、多様な国や制度に基づくカリキュラムの提供を認める一方、UAE国民がそうした学校に就学することを見越し、UAEのローカルな文化・言語的要素も反映した形で関与するとともに、厳格な学校監査を通じた教育の質保証と情報公開による消費者保護の体制を整備することで、それらの学校をドバイの公教育の枠組みに組み込み、国民養成の目的を実現しようとしているといえる。そしてこのことは、政府としては自国民が国家カリキュラムを越えて自由に学校を選択するという「教育の私事化」をある程度受容する一方で、国家カリキュラムを越える学校を含むような新たな制度的な枠組みを用いることにより、教育における「公」と「私」のバランスを保とうとしていると考えられる。そして、このような制度的基盤を維持するための一つの要因として、ドバイの私立学校への教員インタビュー結果から、学校及び教員による、国家・カリキュラム提供機関・地域・子ども（保護者）という多面からの要求への対応、そして、その調整が学校管理者の重要な業務の一つであることが見えてきた。

最後に、今回のドバイの事例から日本の公教育制度は、何を学ぶことができるのだろうか。「教育の私事化」の進行が国家と国民に及ぼす「国民養成の機会喪失」「教育・学習保障の喪失」といった課題は、ドバイの学校監査をはじめとした私立学校への関与の仕方によって対応が試みられていると解釈できる。これを踏まえ日本を振り返ると、グローバル化に伴う新たな教育的ニーズに応えるために、国家による新たな公的な枠組み（制度的基準）の設置が必要となるのではないだろうか。具体的には、学校教育法第一条に該当しない学校やそのカリキュラムの実態把握、そして「グローバル化が進行する中で、日本の言語的・文化的基盤を維持するための最低限の教育とは何か」という視点に立ち戻り、改めて検討する必要性が示唆されよう。

## 付記

本研究は、JSPS 科研費 17H02668 の助成を受けたものである。

注(1) 株式会社 GLOBAL EDUCATION PARTNERS. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000049.000017022.html> (2020年12月10日取得)。

(2) 本論考ではIBのプログラムの表記について、初等教育段階をPYP (Primary Years Programme)、前期中等教育段階をMYP (Middle Years Programme)、後期中等教育段階をDP (Diploma Programme)、そしてキャリア関連のプログラムをCP (Career-related Programme) と記載する。

(3) 従来は教育省と高等教育科学研究省が分かれて設置されていたが、2016年より高等教育科学研究省が教育

省に統合され、1名の教育大臣に対し、公教育担当大臣と高等教育担当大臣の2名がサポートする体制へと改組された。

- (4) Knowledge and Human Development Authority. “Private Education Institutions in Dubai.” <https://www.khda.gov.ae/en/directory> (2020年12月10日取得)より筆者推計。また、今回は後期中等教育段階のみを扱っているためこの統計には表れていないが、初等・前期中等教育段階のみを対象としている日本人学校も私立学校としてみなされ、後述の学校監査も実施されている。
- (5) Knowledge and Human Development Authority. “Private Education Institutions in Dubai.” <https://www.khda.gov.ae/en/directory> (2020年12月10日取得)より筆者推計。

## 参考・引用文献

- 市川昭午. (2006). 教育の私事化と公教育の解体—義務教育と私学教育. 教育開発研究所.
- 高橋哲. (2005). 教育の公共性と国家関与をめぐる争点と課題. 教育学研究, 72 (2), 245-256.
- 中村浩子. (1999). 公教育離脱の選択に見る二つの私事化. 教育社会学研究, 65, 5-23.
- 藤田英典. (1993). 教育の公共性と共同性. 森田尚人ほか編, 学校=規範と文化 (教育学年報2), 世織書房, 3-33.
- 藤田英典. (1994). 個性化時代のアイロニー. 森田尚人ほか編, 教育のなかの政治 (教育学年報3), 世織書房, 152-56.
- 藤田英典. (1999). 問われる教育の公共性と教師の役割. 由布佐和子編, 教育の現在・教職の未来, 教育出版株式会社, 180-214.
- Cuadra, E. P. and Thacker, S. (2014). “The Road Traveled: Dubai’s Journey towards Improving Private Education.” <http://documents.worldbank.org/curated/en/2014/03/20332724/road-traveled-dubais-journeytowards-improving-private-education-world-bank-review> (2021年1月14日取得).
- Dubai Executive Council. (2017). *Executive Council Resolution No. (2) of 2017 Regulating Private Schools in the Emirate of Dubai*.
- Gallagher, K. (ed.) (2019). *Education in the United Arab Emirates: Innovation and Transformation*. Singapore: Springer Nature Singapore Pte Ltd.
- Government of Dubai. “Special Requirements per Curriculum.” [https://www.khda.gov.ae/CMS/WebParts/TextEditor/Documents/High\\_School\\_Equivalency\\_Requirement.pdf](https://www.khda.gov.ae/CMS/WebParts/TextEditor/Documents/High_School_Equivalency_Requirement.pdf) (2020年3月15日取得).
- Kippels, S. and Ridge, N. (2019). “The Growth and Transformation of K-12 Education in the UAE.” Gallagher, K. (ed.) *Education in the United Arab Emirates: Innovation and Transformation*. Singapore: Springer Nature Singapore Pte Ltd., pp. 37-55.
- Knight, J. (2008). *Higher Education in Turmoil: The Changing World of Internationalization*. Brill Sense.
- Knowledge and Human Development Authority. (2020). *Inspection Report IB Curriculum: Greenfield International School*.
- Tamim, R.M. and Colburn, L.K. (2019). “In Quest of Educational Quality in the UAE.” Gallagher, K.(ed.) *Education in the United Arab Emirates: Innovation and Transformation*. Singapore: Springer Nature Singapore Pte Ltd., pp. 161-179.
- UAE Ministry of Education. (2015). *United Arab Emirate School Inspection Framework*.
- UAE Ministry of Education. “School Statistics 2017/2018.” <https://www.moe.gov.ae/Ar/OpenData/Documents/2017-2018.pdf> (2020年3月15日取得).